

ともにつくる

くらしと未来



いわて生協

社会活動・環境活動報告書

～2023年度の取り組み～

第1章 だれもが安心して暮らせる地域づくり

第2章 くらしをサポートする事業

第3章 食の取り組み

第4章 社会貢献活動

第5章 組合員の活動

第6章 環境活動

Contents — 目次 —

いわて生協の概要 3

〈社会活動報告〉

第1章 だれもが安心して暮らせる地域づくり

子育てファミリーの暮らしを応援 5
高齢者の暮らしをサポート 7
東日本大震災被災地支援 9

第2章 暮らしをサポートする事業

店舗事業、宅配事業 10
保障事業、葬祭事業 南昌荘 11
エネルギー事業、
多様な人々がともに働き続けられる職場づくり 12

第3章 食の取り組み

地産地消、食の安全への取り組み 13
顔と暮らしのみえる産直 15

第4章 社会貢献活動

能登半島地震支援、生活困窮者支援 17
ユニセフ募金、行政との取り組み 18

第5章 組合員の活動

くらし・平和を守る運動 19

〈環境活動報告〉

第6章 環境活動

環境理念 環境方針 20
CO₂ 排出量削減の取り組み 21
原子力発電に依存しない事業 22
廃棄物の削減、リサイクルの取り組み 23
組合員活動の取り組み 24
環境に配慮した商品の利用普及 25
環境活動のあゆみ 26

協同組合について

【定義】協同組合とは

協同組合とは、人びとの自治的な協同組織であり、人びとが共通の経済的・社会的・文化的なニーズ（要望）と願いを実現するために自主的に手をつなぎ、事業体を共同で所有し、民主的な管理運営を行うものです。

【価値】協同組合にとって大切なものは

協同組合は、自分たちの力と責任で、民主的に、平等で公平に、そして連帯してものごとをすすめていくことを基本理念とします。また先駆者たちの伝統にしたがって、協同組合の組合員は、倫理的な価値観として、誠実でつつみ隠さず、社会的責任と他者への思いやりを持つことを信条とします。

この協同組合の「定義・価値」は、1995年の国際協同組合同盟（ICA）100周年記念大会で、21世紀にむけて、世界の協同組合の指針として採択され、現在もその基礎となっているものです。
※定義と価値は、JC総研発行「新協同組合とは（再訂版）」より引用。

編集方針

この報告書は、いわて生協が基本的な考えにそってすすめている事業・活動の内容を、その進捗状況とともに掲載しています。いわて生協「2030年ビジョン」で掲げる「ともにつくるくらしと未来」の実現に向けた取り組みを、活動の一部ではありますがお伝えします。

対象期間

2023年度（2023年3月21日～2024年3月20日）の事業・活動を中心に報告していますが、一部2024年度の情報や将来の目標も含まれます。

発行 2024年6月

HPアドレス

<https://www.iwate.coop>
本報告書はホームページに掲載しています。

お問い合わせ先

いわて生活協同組合
〒020-0690 岩手県滝沢市土沢 220 番地 3
TEL.019-687-1321 (代)

ごあいさつ

「ともにつくるくらしと未来」をめざして

いわて生協では、「2030年ビジョン」とその実現に向けた「第10次中期計画」（2021年～2023年）のもと、くらしを支える様々な事業をすすめてまいりました。この3年間は、新型コロナウイルスの感染拡大、記録的な円安と物価高騰が続き、経験したことのない大変大きな困難を組合員のくらしといわて生協の事業経営にもたらしました。ロシアによるウクライナ侵攻、さらにパレスチナ・ガザ地区で戦争がはじまり、平和への不安も大きく広がりました。

こうした中で、いわて生協では、物価高できびしい家計を応援する取り組みをはじめ、重点とした子育て層のくらしのサポート拡充、長年の要望だった店舗と宅配のポイント統一、新店ベルフ向中野のオープンやセリオホール3ホールの新設、コープステーションの開設、またフードドライブや子ども食堂支援など地域を支える活動も広がりました。9割近い事業所で、県内の再生可能エネルギーで発電した電気を使用し、CO₂排出量は国の削減目標を大幅に上回るなど、環境の取り組みも前進しました。

これからの3年間、岩手県では少子高齢化・過疎化がさらにすすみます。また紛争や戦争、異常気象や自然災害の増加など、世界でも日本でも予測できない変化があり、大変きびしい社会や経済環境が続くことが予想されます。

いわて生協では「2030年ビジョン」で『ともにつくるくらしと未来』を掲げ、その実現に取り組んでいます。私たちのくらしや地域をめぐるきびしい状況が続く今こそ、組合員の協同の力を寄せ合い、くらしを支える事業と活動をすすめてまいります。そしてSDGsが掲げる「だれ一人取り残さない」世界の実現をめざし、歩みをすすめてまいります。

みなさまからのご支援、ご協力に感謝申し上げますとともに、今後もいっそうのご指導、ご協力をお願い申し上げます。



いわて生活協同組合
理事長
阿部 慎二



1990年県内生協の合併・合流でいわて生協が誕生。



2023年、ベルフ向中野を盛岡市にオープン。

いわて生協の成り立ち・概要

いわて生協が誕生して34年—

組合員は28万6千人を超え、県内世帯の過半数に広がっています。

「盛岡安く牛乳を飲む会」から「生協」へ

1969年一方的な牛乳の値上げに反対し、盛岡市上田地区のお母さんたちが「盛岡安く牛乳を飲む会」を設立し、牛乳の共同購入を始めました。400世帯1千本から始まった牛乳の共同購入は、お母さんたちの声掛けで急速に広がり、卵の共同購入、サリチル酸の入らない清酒を直買いする運動にも発展しました。一方でコープ商品や生協運動の学習も積み重ね、同年お母さんたちによる地域生協「盛岡市民生協」が誕生しました。

その後、釜石市や北上市、大船渡市にもお母さんたちによる地域生協がつけられていきました。

1990年3月「いわて生協」が誕生

組合員のくらしや地域にさらに役立つ生協をめざし、県内5つの地域生協と岩手県学校生協宮古地域の合併・合流で、1990年3月21日「いわて生協」が誕生。次の3つをめざしてスタートしました。

1. ますますきびしくなる組合員のくらしを守り、より豊かなくらしを実現していく。
2. そのためにも競争に負けない力強い生協をつくっていく。
3. 停滞する岩手の経済や、過疎化・高齢化がすすむ地域社会に役立つ生協をつくっていく。

数字で見るあゆみ

| ■組合員数 | | ■出資金 | | ■供給高 | |
|-----------------|-----------|-----------------|---------|-----------------|---------|
| 1990年度 (誕生時) | 8万8,166人 | 1990年度 (誕生時) | 13.1億円 | 1990年度 (誕生時) | 184.1億円 |
| 2000年度 | 13万7,567人 | 2000年度 | 36.4億円 | 2000年度 | 372.9億円 |
| 2010年度 | 19万9,279人 | 2010年度 | 69.4億円 | 2010年度 | 352.8億円 |
| 2015年度 | 23万3,208人 | 2015年度 | 82.5億円 | 2015年度 | 386.2億円 |
| 2020年度 | 26万9,134人 | 2020年度 | 99.3億円 | 2020年度 | 446.3億円 |
| 2023年度 | 28万6,788人 | 2023年度 | 109.6億円 | 2023年度 | 466.5億円 |

2030年ビジョン
私たちがめざすこと
ともにつくる
くらしと未来

- 1 私たちは、生涯とおして組合員のくらしに役立つ生協をめざし、特に若い世代や子育て層のくらしに役立つ事業をすすめ、加入・利用・活動参加を広げます。
- 2 私たちは、だれもが安心して暮らせる社会と、人と人がつながる地域づくりをめざし、組合員参画による運営とくらしの願いにそった活動をすすめます。
- 3 私たちは、地球環境・食・平和について学び、行動する人を広げ、持続可能な世界の実現をめざします。

2023年度の事業・決算概要

2023年度は「2030年ビジョン」実現のための「第10次中期計画」の最終年度として取り組みをすすめました。きびしい家計を応援する取り組みをはじめ、店舗事業では「ベルフ向中野」のオープン、宅配事業では子育てサポートの拡充、長年の要望だった店舗と宅配のポイントの統一などをすすめました。組合員は7千人増えて28万6千人に、出資金も109億円を超えました。経常剰余金は10億1千万円と予算を大きく上回って確保することができました。

事業概要

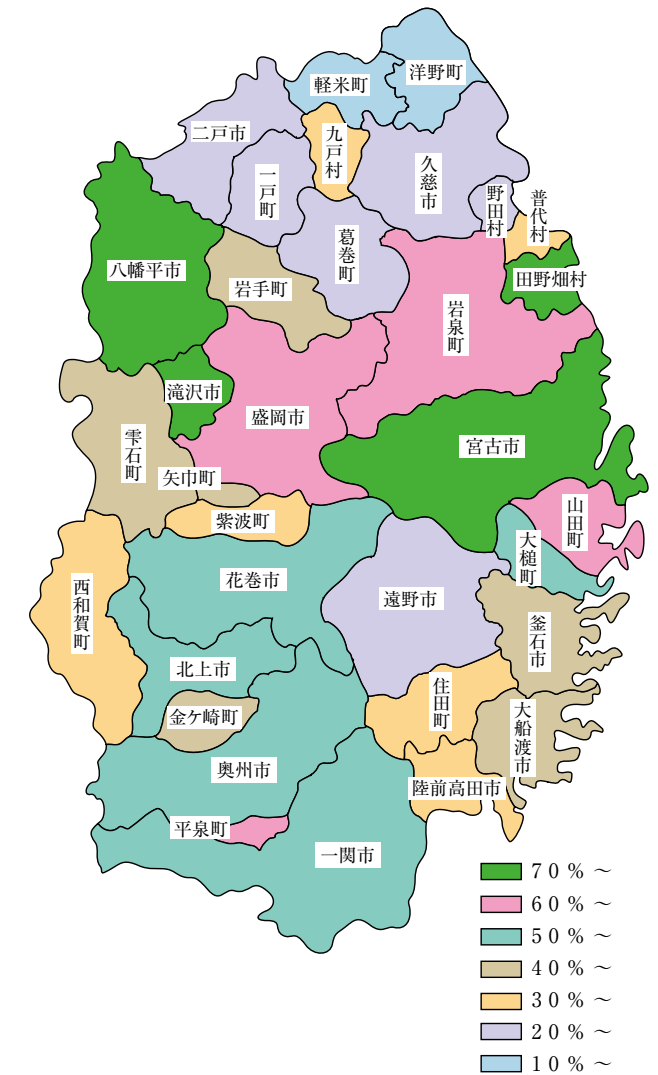
店舗事業（16店舗）、宅配事業（9宅配センター）、保障事業（1共済センター）、葬祭事業（14館）、福祉事業（2事業所）、エネルギー事業
関連会社 / (株) コープ東北保険センターいわて支店

いわて生協のプロフィール

※すべて2023年度末(2024年3月20日)の数字です。

| | |
|-------------|-------------|
| ■組合員数 | ■世帯加入率 |
| 28万6,788人 | 53.6% |
| ■出資金 | ■供給高 |
| 109億6,087万円 | 466億5,372万円 |
| ■宅配利用人数 | ■常勤者(職員)数 |
| 8万20人 | 2,093人 |

市町村ごとの組合員世帯加入率



いわて生協は「2030年ビジョン」の実現を通してSDGs達成に貢献します

SDGsは、2015年9月に国連で採択された「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称で、2030年までに世界の国々が力を合わせて達成をめざす共通の目標です。SDGsは2030年までに貧困をなくし、地球環境を保護し、平和で豊かな社会の実現を呼び掛けており、生協がめざす方向性と重なり合っています。いわて生協は、「2030年ビジョン」の実現を通してSDGsの達成に貢献します。





個人宅配「子育てサポート」の対象を拡大し、子育て世帯を応援。



「カードのおかげで買い物が楽しい」と好評のキッズカード。

第1章

だれもが安心して暮らせる地域づくり

だれもが安心して暮らせる地域をめざして、事業・活動で多彩に取り組んでいます。



子育てファミリーのくらしを応援

はじめてばこ 4年で1万2千人にプレゼント

岩手に生まれた赤ちゃんを祝福し、健やかな成長を願って贈る「はじめてばこ」。岩手めんこいテレビといわて生協が主催して2019年に始めました。「はじめてばこ」には協賛企業からのプレゼントを詰めて、ご応募いただいた全家庭に無料でお届けしています。スタートから4年の2023年度は2,216件のお申し込みをいただき、「はじめてばこ」を贈った赤ちゃんは1万2,749人となりました。この取り組みには5団体の後援、47企業の協賛をいただいています。



「はじめてばこ」へのご支援ありがとうございます

- | | |
|---|--|
| 【後援】 ・岩手県 ・岩手県医師会 | ・岩手県産婦人科医会 ・岩手県歯科医師会 ・岩手県助産師会 |
| 【協賛】 ・明治 ・江崎グリコ ・白石食品工業 ・森永乳業 ・クラブコスメチックス ・ジェクス ・スタジオアリス ・杜の住宅公園みらいえ ・キリンビバレッジ ・神の前キッズデンタルパーク ・東北銀行 ・雪印ピーンスターク ・兼平製麺所 ・盛岡いすゞモーター ・日本食研 ・岩手県産 ・上山製紙 ・小山製麺 ・佐々長醸造 ・タカノフーズ ・浅沼養鶏場 ・サンウェイ LISERJU GROUP ・太子食品工業 | ・遠山病院 ・平安商店 ・ファムカンパニー ・湯田牛乳公社 ・いわちく ・スクロール ・戸田久 ・オリックス自動車 ・花王 ・事務機商事 ・プラス ・ヒラトヤ ・けむやま花店 ・岩手ホテル&リゾート盛岡グランドホテル ・山崎製パン ・北館製麺 ・純情米いわて ・エーザイ ・TANAX ・カゴメ ・王子ネピア ・みちのくコカ・コーラボトリング ・花巻おもちゃ美術館 ・盛岡市動物公園 ZOOMO |

いわて生協の子育てサポート はじめてCLUBのサービスを拡大

「はじめてCLUB」は、お子さんがいるご家庭をサポートする制度です。店舗・宅配での生協商品の割引購入特典、サポートメールの配信など、生協の事業・活動で様々なサービスを受けることができます。2023年度、入会できるお子さんの対象年齢を「1歳6か月まで」から「4歳未満」に拡大。さらに個人宅配の配達手数料無料期間を1年から2年に延長しました。これにより、4,252人が新たに登録し、年度末の会員は8,310人に広がりました。

個人宅配子育てサポート制度 対象を12歳まで拡大

宅配事業では、個人宅配配達手数料を優遇するサポート値引き制度を設けています。これまでの「子育てサポート値引き」の対象は「母子手帳発行からお子さんが満6歳になるまで」でしたが、子育て層のくらしをさらに応援しようと、2023年度より「お子さんが満12歳になるまで」に拡大しました。組合員からは「サポート対象拡大を聞いて宅配を再開した」「子育てを応援してくれてうれしい」と喜びの声が寄せられました。この結果2023年度末の登録は5,033人（前年比103%）に広がりました。

キッズカード 13店舗でスタート

家族での買い物を楽しんでもらおうと、0歳から小学6年までのお子さんが対象の「キッズカード」を4店舗でスタート。2024年度からは13店舗に拡大しました。

1回のお買い物ごとにシールが1枚もらえ、シールが貯まると景品と交換できます。組合員からは「袋詰めの際にシールをもらって来るようになり助かる」「キッズカードをきっかけに子どもと一緒に買い物に来てくれるようになった」と、喜びの声が寄せられています。



ママ・パパの声から生まれた商品 コープきらきらステップ・きらきらキッズ

「コープきらきらステップ」（生後5か月～3歳ごろ対象）「コープきらきらキッズ」（3歳～6歳ごろ対象）は、お子さんと子育てをがんばるママ・パパを応援するコープ商品です。

「作るのが大変な離乳食が、きらきらステップのおかげでラクになった」「きらきらキッズのお菓子はやさしい甘さで子どももお気に入り」と子育て中の組合員から支持されています。



0～3歳ママのためのイベント ハピママコープ

「ハピママコープ」は、0～3歳の親子を中心に子育てを応援する活動です。

2023年度は、子育てママ対象のイベント「ハピママレッスン」を県内16会場で268回開催し、1,189組の親子が参加しました。「自宅ではなかなかできないクラフトを楽しめた」「親子で楽しく過ごすことができた」と好評です。

ハピママコープ開催地域

- | | | |
|-----------|------|-------|
| ・盛岡市（4会場） | ・北上市 | ・大船渡市 |
| ・滝沢市 | ・奥州市 | ・二戸市 |
| ・矢巾町 | ・宮古市 | ・久慈市 |
| ・紫波町 | ・一関市 | |
| ・花巻市 | ・釜石市 | |



子育てサポートをお知らせ きらきら応援隊

2022年度から取り組む「きらきら応援隊」は、地域の子育て団体を訪問し、生協の子育てサポートを知らせる活動です。2023年度は77回実施し657組の親子が参加しました。「子育てに役立つ情報を知らせてもらえて助かる」と好評です。

新一年生の交通安全を願い ランドセルカバー7千枚贈呈

保障事業では、子どもたちの交通事故を減らそうと、「コーすけ入りランドセルカバー」を希望する県内の小学校に贈呈する活動を2015年から行っています。

2023年度は、県内小学校の約8割に当たる206校の新入学児童に7,043枚のランドセルカバーを贈呈しました。さらに、こくみん共済コープ（全労済）様と共同で、「コーすけ入り横断旗」269本を県内の小学校3校に贈呈しました。





普代村との連携で夕食宅配サービスを開始しました。



無料お買い物バスを盛岡・宮古地域で運行しています。

高齢者のくらしをサポート

夕食宅配サービス10周年 21市町村で1日3,553食をお届け

週5回、カロリーや塩分に配慮したお弁当をお届けする「夕食宅配サービス」(2013年事業開始)は、「朝食や昼食も届けてほしい」という要望にこたえて「朝昼用おかずセット」を新たに始めました。利用は21市町村で1日3,553食(前年比105%)に広がりました。



普代村から要請を受け、県内で初めて自治体との連携によるサービスを開始しました。普代村ではこれまで高齢者などを対象に週1回の配食サービスを行っていましたが、この連携によって週5日間の配達と選べるメニューで内容が充実しました。

夕食宅配サービス提供地域(一部展開地域を含む)

- ・盛岡市
- ・花巻市
- ・一戸町
- ・大船渡市
- ・滝沢市
- ・北上市
- ・久慈市
- ・野田村
- ・八幡平市
- ・奥州市
- ・宮古市
- ・普代村
- ・雫石町
- ・平泉町
- ・山田町
- ・矢巾町
- ・一関市
- ・釜石市
- ・紫波町
- ・二戸市
- ・大槌町

宅配事業個人宅配サポート制度で 高齢者のお買い物を応援

宅配事業では、高齢の方などを対象に、配達手数料を割り引くサポート制度を設けています。2023年度、高齢者サポート値引き(対象:70歳以上の世帯)は1万4,247人、介護者サポート値引き(対象:ご本人またはご家族が介護認定を受けている世帯)は3,153人の方が利用しました。

店舗事業でのお買い物支援 9万7千人が利用

無料お買い物バス

盛岡地域5店舗への無料バス、宮古市・山田町から宮古店舗への無料お買い物バス、マリノコブドラと宮古駅間のシャトルバスを運行しています。2023年度のバス利用人数は6万7千人(前年比97%)となりました。

お買い物配達サービス

お店で購入した常温の商品をご自宅にお届けする「お買い物配達サービス」を全店で実施しています。2023年度は年間3万人(前年比103%)が利用しました。「飲料や洗剤など重い商品を届けてもらえて助かる」と利用者から好評です。

高齢者見守り活動 異変対応は11年間で189件に

いわて生協は県内の全市町村と協定を締結し、宅配(班・個人宅配)、夕食宅配サービスを利用される高齢者を対象に、配達時気になることや異変があった場合、自治体が指定する窓口へ連絡する「見守り活動」を行っています。

2023年度の異変への対応事例は29件、11年間で189件となり、ご家族から感謝の声をいただいています。



小規模多機能型居宅介護事業 のべ246人が利用

介護事業への要望の高まりを受けて、2018年度から、24時間・365日の在宅支援を行う「小規模多機能型居宅介護事業」を行っています。2023年度、小規模多機能型居宅介護「あい長橋町」は、のべ246人が利用しました。



「あい長橋町」ではお出かけや季節の行事を大切にしています。

コープ介護・福祉センターあい サービス提供人数は6千人に

コープ介護・福祉センター「あい」が行う在宅介護3事業の2023年度の利用人数は、居宅介護支援2,182人(前年比109%)、訪問介護1,149人(前年比87%)、福祉用具レンタル2,708人(前年比102%)となりました。また、ベルフ青山で介護用品展示会を開催し、杖や靴を試す方もいて好評でした。



ベルフ青山での展示会には多くの方が立ち寄りしました。

シニア向け健康づくり教室開催

コープ共済連の協賛を受けて、キャリッジスポーツ講師によるシニア向けの運動教室「健康づくり教室」を開催しています。3か月6回コースで、運動習慣の定着により健康寿命を延ばすことをめざしています。

2023年度は8会場で開催し、138人が参加。「体のことを考えるいい機会になった」と喜びの声が寄せられました。



シニア向け企画を多彩に開催

シニア層の元気づくりの場「大人企画」の開催が広がりました。盛岡・滝沢・八幡平・奥州・北上・花巻・一関・宮古・釜石・大船渡・二戸市の19会場で194回開催し、1,765人(前年比116%)が参加。体操や手芸など多彩なテーマで行っています。



「大人企画」の開催がさらに広がっています。

組合員どうして助け合い、 くらしをサポート

コープくらしの助け合いの会

「困ったときはお互いさま」の気持ちから、組合員どうし助け合う有償ボランティア組織として1992年に発足。高齢者や産前産後の方などを対象に、家事・生活援助を行っています。2023年度は11支部に会員1,499人(前年比105%)、活動時間2万408時間(前年比88%)でした。



コープサロン、ふれあいお茶っこ会

地域でつながり交流する場として「コープサロン」「ふれあいお茶っこ会」を開催しています。

「コープサロン」は、気軽に立ち寄り一息つける場として、盛岡・滝沢・八幡平・宮古・大槌・大船渡・花巻・北上・奥州・一関市の16会場で173回開催し1,313人(前年比121%)が参加しました。

「ふれあいお茶っこ会」は、盛岡医療生協と共催するミニデイサービスです。2023年度は盛岡地域14会場で開催しました。



東日本大震災被災地支援 変化する要望に寄り添い、沿岸地域での支援活動を継続しています。

**毎日の暮らしを支える買い物支援
13年間で85万人が利用**

移動店舗「にこちゃん号」は、組合員の募金と全国の生協の支援で2012年から開始。2023年度は2台が宮古市、山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市の災害公営住宅など46か所に運行しました。宮古市、山田町から店舗へ運行する「無料お買い物バス」と合わせ、2023年度は5万人（前年比96%）が利用しました。13年間でのべ85万人が利用し、買い物が不便な地域の暮らしを支えています。

沿岸被災地（内陸避難の方含む）対象に個人宅配の配達手数料を減免する支援は6,910人（前年比95%）が利用しました。



**沿岸地域での料理サロン
4年ぶりの再開**

「生協料理サロン」は、参加者みんなで調理していっしょに食事する取り組みです。味の素様と共同の取り組みとして2016年に開始し、沿岸4市1町で取り組んできましたが、コロナ禍で2020年度から休止していました。2023年9月から活動を再開。各地の社会福祉協議会とも連携して12回開催し、142人が参加しました。「いっしょに食べるとおいしい」「家でも作りたい」と喜ばれています。



**被災地支援活動助成金
8年間で2,208万円を助成**

東日本大震災被災地で支援活動に取り組む団体を支援する助成金制度を2016年度に設立しました。「沿岸12市町村での活動、内陸で被災者を支援する活動」を対象に、2023年度は13団体に312万円を助成しました。これまでの8年間で助成総額は2,208万円にのびます。

この他、地域で自主的に活動するグループへの補助を36グループに313万円行いました。



被災地支援活動助成金 贈呈団体(活動エリア)

- 【宮古市】 子どもたちに映画お届け隊
- 【山田町】 北浜老人クラブ
- 【大槌町】 おおつちおばちゃんくらぶ
- 【大船渡市】 NPO 法人おはなしころりん
- 【陸前高田市】 陸前高田子ども図書館ちいさいおうち、NPO 法人きらりんぎっず、NPO 法人タカタカラ、つむぐ、(一社)三陸アーカイブ減災センター
- 【釜石市・大船渡市】 NPO 法人 Plus One Happiness
- 【陸前高田市、大船渡市、大槌町】 もっちいと森の仲間たち
- 【沿岸各地】 CAP リアス、NPO 法人乗馬とアニマルセラピーを考える会



長年の要望だった店舗と宅配のポイントを統一しました。



宅配の受け取り拠点「コープステーション」は3店舗に拡大。

第2章

暮らしをサポートする事業

ふだんの暮らしにいっそう役立つ事業、生涯をととして組合員の暮らしに役立つ事業をめざして、取り組みをすすめました。



店舗事業

**店舗と宅配のポイントを統一
コープポイントをスタート**

組合員の要望にこたえて、店舗と宅配のポイント制度を統一し、共通で利用できる「コープポイント」を2023年度スタートしました。ポイントが付与される事業が夕食宅配、住まいと暮らしのサービスにも広がったほか、ポイントで募金ができるようになりました。

組合員からは「ポイント制度がわかりやすくなった」「募金もできて使い方が広がった」と好評です。



宅配事業

毎週の利用者は8万人に

商品案内チラシを見て注文いただいた商品を翌週お届けする宅配（班・個人宅配）は、利用者定着に取り組み、利用者は8万20人（前年比101%）、県内世帯の15.2%（前年+0.3%）に広がりました。

宅配の利用促進として、「商品利用でポイント山分け」などのポイント企画を拡大したほか、新たに「無印良品」の取り扱いを開始しました。

**16番目のお店
ベルフ向中野オープン**

2023年度は、盛岡市向中野にベルフ向中野をオープンしました。新店は2018年のベルフ北上以来5年ぶり、いわて生協の店舗は16店舗となりました。ベルフ向中野では1年間で3千人以上が新たに組合員に加入しました。



**宅配商品の受け取り拠点
「コープステーション」3店舗に**

ライフスタイルが多様化する中、宅配の利用形態を広げて組合員の暮らしに貢献しようと、注文した宅配商品を店舗で受け取る「コープステーション」の開設を2022年度スタート。2023年度はコープアテールに開設し、登録人数は3店舗で669人（前年+334人）に広がりました。



店舗に共済カウンターを設置しています。



セリオでは葬祭に関するあらゆることをサポートします。

保障事業

6千件の加入で契約は11万6千件に

コープ共済は、全国の生協組合員の「助け合い」の制度として、手ごろな掛金で充実の保障を実現した保障のコープ商品です。

2023年度、コープ共済の新規加入は5,855件となり、契約件数は11万5,599件となりました（前年比100%）。ペルフ向中野に独立型共済カウンターを設置し、カウンター設置店は11店舗に広がりました。

葬祭事業

14ホールで1,690件を施行

葬祭事業は、「人生最後の儀式だからこそ、自分たちがつくる生協で」「納得できる適正価格で」という組合員の願いから生まれ、1993年から事業を行っています。2023年度は、盛岡市のセリオホール中野を全面改装し快適さを向上させました。14のセリオホール（葬祭会館）で、1,690件（前年比102%）の葬儀を施行し、「故人にふさわしいお見送り」と対応が評価されました。

南昌荘

入園者が過去最多の2万9千人に

1885年（明治18年）建造の南昌荘は、保存を望む多くの声にこたえ、いわて生協が保有し、2000年から公開を行っています。建物は盛岡市の景観重要建造物に、庭園は盛岡市の保護庭園・国の登録記念物に指定されています。

2023年度は、好評の自主企画に加えて盛岡市への観光客が増えたこともあり、年間の入園者数は2万9,469人（前年比143%）と開館以来最多の入園者となりました。

10億円の共済金をお支払い

コープ共済は、共済金のお支払いを大切に、請求漏れが発生しないように宅配・店舗を通じて加入者に声かけを行っています。2023年度の共済金のお支払いは、1万4,142件（前年比65%）、10億6,080万円（前年比68%）。コロナへの対応で過去最多に増えた前年より減少しましたが、引き続き「組合員のくらしを支える助け合い」の役割を果たしました。

「セリオ積立」1万5千件に

いつか訪れる“もしもの時”に備えて、計画的に積立を行う「セリオ積立」も、組合員の要望から生まれた制度です。2023年度は、新たに1,027件の申し込みをいただき、総件数は1万5,381件（前年比105%）になりました。



エネルギー事業

生協灯油は総額3千万円を還元

2023年度も原油価格の高騰が続く中、県内の灯油価格を適正化しリードする役割を果たしました。1～3月度の配達灯油に対し1L2円、冬季1,000L以上の利用で1L1円、総額3,450万円の還元を実現し、きびしさを増す組合員の家計に貢献しました。



配達灯油の登録人数は3万9千人にのぼります。

住まいと暮らしのサービス事業 3万3千人が利用

住まいと暮らしのサービスセンターは、地域の専門業者や施設と提携し、さまざまなサービスを組合員に提供しています。

2023年度は、店舗で「住まいの相談会」を87回開催し、快適な住まいづくりをサポートしました。提携施設で優待サービスを受けられる「組合員カード提示サービス」は、提携の解除もあり、サービスの利用者はのべ3万3,428人（前年比95%）と減少しました。

コープのでんき「COCOENE」 契約件数は7千件に

環境にやさしく、原発に依存しないくらしを広げようと、再生可能エネルギーを積極的に取り入れた電気の小売事業を行っています。コープのでんき「COCOENE」は、再生可能エネルギー比率100%（計画値）の「ソフトでんき」を取り扱い、2023年度の保有件数は7,245件（前年△265件）となりました。

多様な人々がともに働き続けられる職場づくり

常勤者の子育てをサポート

子育て中の常勤者が働きやすい職場づくりをめざして取り組みをすすめています。

2023年度は祝祭日の一時保育を5会場で19日間実施し、のべ110人の子どもが利用しました。育児休業は、男性常勤者の取得を推進し、取得率は男性9名中4名取得（44%）でした。女性は対象者7名が全員取得しました。



「いわて健康経営認定事業所」に認定

常勤者が心身ともに健康で働けるよう、「健康づくり月間」や禁煙チャレンジなどに取り組んでいます。2023年度はこうした取り組みで「いわて健康経営認定事業所」の認定を受けました。

障がいを持った人の 就労をサポート

いわて生協では、多様な常勤者がともに働き続けられる組織をめざし、障がいを持った人の雇用にも積極的に取り組んでいます。2014年から岩手県の「特別支援学校就労サポート制度」に登録し、支援学校生の職場実習・体験を受け入れ。また、盛岡地区「特別支援学校と企業との連携協議会」にも参加しています。

2023年度末時点で障がいを持っている人の雇用は59人、法定雇用率は3.3%。定期面談やアンケートからの改善などを行い、長く働き続けられるよう取り組んでいます。





産直豚肉原料の「アイコープ産直アイコープ豚使用味付生ホルモン」。



生協ならではの商品のよさと利用を広げています。

第3章 食の取り組み

岩手の豊かな農林水産物を地元で消費する「地産地消」を広げようと、県内企業や生産者、組合員と一っしょに取り組んでいます。また、安全な商品をお届けするため、全国や東北の生協と協力して取り組んでいます。



アイコープ商品・アイスタイル商品

地産地消をめざすオリジナルブランド商品

アイコープ・アイスタイル商品は、いわて生協が開発・供給しているオリジナルブランド商品です。できるだけ岩手県産・国産原料を使用し、主に岩手県内のメーカーと共同で開発した商品です。開発には、組合員も参加しています。

東日本大震災以降は特に、「地場産品の利用を広げることで岩手を元気にしよう」と、利用普及に積極的に取り組んでいます。

2023年度「アイコープ商品」「アイスタイル商品」の実績

- アイコープ商品・アイスタイル商品数 **129品目**
- 2023年度供給高 **10億5,285万円** (前年+2,244万円、102.2%)
- 製造委託メーカー **47社**

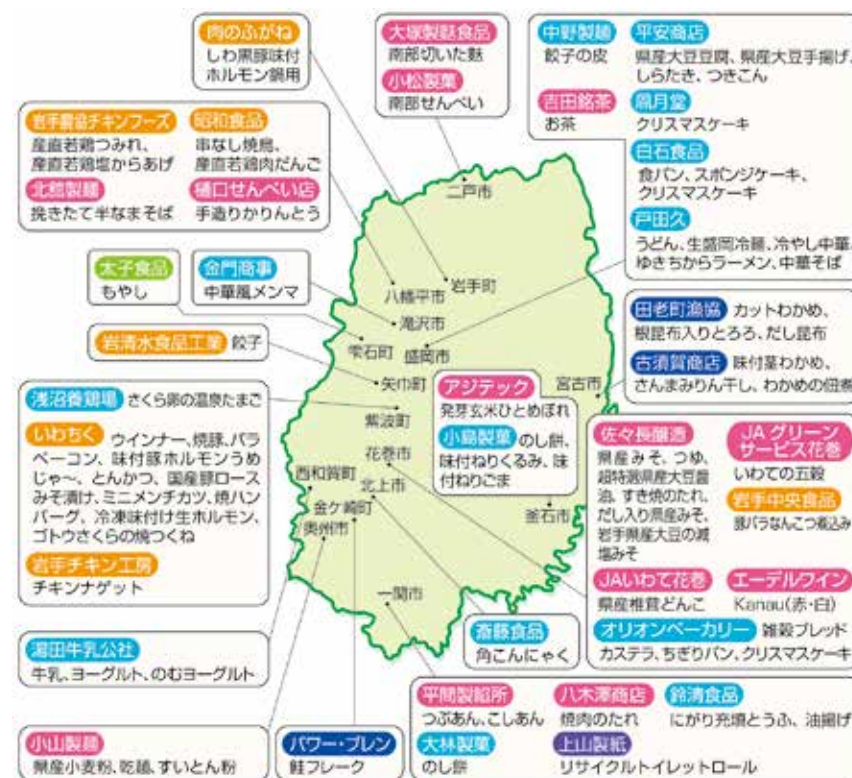
開発のコンセプト



できるだけ岩手県産の原料を使用し、岩手県内で製造する高品質の商品です。開発には組合員も参加し、味や使い勝手などを確かめています。



食品添加物など、いわて生協の品質管理基準を満たしながら、より求めやすい価格を重視した商品です。



アイコープ商品4品を改善

2023年度は、アイコープ商品4品を改善しました。また、原材料や資材の高騰を受けて、21品の価格改定や量目変更を行いました。

改善

アイコープ県産小麦うどん

岩手県産小麦を使い、岩手県内のメーカー（戸田久）に製造を委託している商品です。

これまで岩手県産小麦「ナンブコムギ」を使用してきましたが、新たに岩手県産小麦新品種「ナンブキラリ」に変更しました。



商品のよさと利用を広げる組合員の活動

生協ならではの商品を家族で試すことで、商品を知り、利用のきっかけにしようと、「商品モニター」に取り組まれました。「はじめてCLUB」対象のモニターには396人、宅配利用者対象のモニターには200人が参加。広報誌などでモニターの声を紹介しました。

こ〜ぶ委員会では商品を学習し、そのよさと利用を伝える「はなまる商品」の活動に取り組んでいます。2023年度は、アイコープ商品や産直品を中心に学習し、委員会で学んだことやレシピを「秋のコープのつどい」、店内POP、宅配カタログなどを通して組合員に伝えました。



秋のコープのつどいで「はなまる商品」の魅力を紹介しました。

地域の特産品利用を広げる取り組み

岩手の豊富な農林水産物や商品の利用を広げようと、行政や生産者団体などの協力をいただき、県内の特産品をご案内しています。

2023年度は「にしわが山の市場」をベルフ牧野林で2回開催しました。宅配では、カタログ「こちらいわてナチュラル百貨店」を新たに発行し、年4回県内メーカーの商品を案内しました。



毎回好評の「にしわが山の市場」。

安全な商品をお届けするために工場点検、商品検査の取り組み

組合員のみなさんに安全な商品をお届けするために、全国の生協や東北の生協と協力して品質管理や安全チェックの取り組みをすすめています。

2023年度、いわて生協では、アイコープ商品製造委託メーカーの工場点検を51工場で行いました。品質管理室では、店舗や宅配で取り扱っている商品が独自の基準に適合しているかを確認するため、商品微生物検査(3,311件)を行いました。

また商品事故を防止するため、全国の生協で商品についての組合員からのお申し出情報を共有し、事故の予兆を見逃さない仕組みを作り管理しています。





産直生産者「今松野菜生産組合」の今松貢さん（岩手町）



産直米生産者の鈴木さん（花巻市）と稲刈り体験で交流しました。

顔とくらしの見える「産直」

組合員と生産者が交流し、日本の農林漁業を守る運動

いわて生協の産直は、安全で新鮮、良質な農林水畜産物を求める組合員と、農林漁業の発展や健全な生産方法をめざす生産者が交流し、よりよい農水畜産物を作りながら、日本の食料と農林漁業を守っていく運動です。

2023年度「産直」の実績

- 供給高
25億2,591万円（前年+ 9,715万円、104.0%）
- 産直提携団体
25団体
- 農産産直コーナー設置店舗
9店舗

県内25産地と産直提携



生産者と直接話せる交流会は組合員に好評です。

いわて生協の産直三原則

- ①産地と生産者が明確であること
- ②栽培、飼育方法が明確であること
- ③組合員と生産者が交流できること

いわて生協の産直基準

- ①組合員の多様な参加を強め、組合員の願いを商品と事業に反映します。
- ②岩手の農林畜水産業を守り、その発展に貢献します。
- ③組合員と生産者が「対等」「共同」「公平」の立場で、課題へ取り組みます。
- ④産地・生産者、生産・流通方法を明確にします。
- ⑤記録・点検・検査を行い、より確かな産直商品を届け続けます。
- ⑥持続可能な生産とともに、事業の環境負荷低減にも取り組みます。

産直野菜農薬基準

- ◆排除農薬／使用禁止する11農薬
NAC、ジメトエート、2.4PA、MEP、マンネブ、DEP、EPN、ジラム、チウラム、マラソン、クロルピクリン
- ◆排除目標農薬／排除に向けて計画的に努力する6農薬
キャプタン、ダイアジノン、ベノミル、パラコート、リニユロン、アトラジン

「産直収穫祭」を店舗・宅配で開催

産直品のよさと利用を広げる「産直収穫祭」を、店舗と宅配で毎年開催し、生産者と組合員、職員がいっしょにおすすめ活動に取り組んでいます。

2023年度は、セールチラシや広報誌「HELLO コープ」に産地紹介やレシピを掲載し、売り場とも連動。収穫祭での利用を広げました。



「産直収穫祭」は夏と秋に開催し産直品の利用を広げています。

組合員が栽培方法などを点検する「公開安全確認会」「業務確認会」

産直品の栽培・飼育方法などの約束事が守られていることを、組合員も参加して確認する「公開安全確認会」を2003年度から毎年開催。2023年度は23産地に組合員72人が参加し、生産者の日頃の努力を確認しました。

一方で生協が産直品のよさをきちんと伝えて供給しているかを組合員・生産者が確認する「業務確認会」も行い、店舗など5事業所を組合員と生産者18人が確認しました。



「公開安全確認会」ではリストに基づき点検を行います。

岩手の食と農、くらしを守る運動

いわて生協は、日本の農林漁業、食の安全・食料を守る運動に取り組んでいます。2023年度は「秋のコープのつどい」で食料自給率について学習に取り組みました。また「いわて食・農ネット」といっしょに、食料自給率向上や農家の経営継続のための支援について自治体・農協への要請行動を行いました。

組合員と生産者の交流活動を継続

産直学習会

生産者や製造メーカーの方をお招きして地域での商品学習会を8企画開催し、142人が参加。うち3企画はオンラインで開催し、工夫して生産者との交流・学習に取り組みました。



十文字チキンカンパニーの職員を招いて産直若鶏の学習会を開催。

産直牛乳生産者へタオルを贈呈

産直牛乳の生産者へ感謝と応援を伝えようと、搾乳用のタオルを組合員から生産者へ毎年贈っています。2023年度も組合員の代表が公開安全確認会で産地を訪れ、タオルを贈呈しました。



「タオルは毎日使うのでありがたい」と生産者。

産直牛乳 後継者育成資金 187万円に

酪農の発展に欠かせない後継者の育成を支援しようと、いわて生協では原乳200mlあたり20銭を「後継者育成資金」として、生協牛乳・乳製品の売り上げから生産者に還元しています。

2023年度は187万円を西和賀酪農組合と岩手ふるさと産直牛乳推進組合へ贈呈しました。





「フードドライブ」への参加が広がっています。



岩手県内でのコープフードバンク協定締結は 18 団体になりました。

第 4 章

社会貢献活動

「だれもが安心して暮らせる社会・地域」をめざして、行政や諸団体のみなさんといっしょに取り組みをすすめています。



能登半島地震支援活動

3千万円超の募金、職員13人を派遣

2024 年能登半島地震に対し、東日本大震災の支援の恩返しの気持ちも込めて支援活動に取り組んでいます。

能登半島地震支援募金には、組合員のみなさんから 3 千万円を超える募金が寄せられました。日本生協連には全国の生協から 10 億円を超える募金が寄せられており、富山県と新潟県に一部を義援金として贈呈したほか、今後石川県にも贈呈します。また被災地支援活動を支える支援金として活用します。

要請を受け、2024 年 1 月～ 4 月までに、13 人の職員を被災地に派遣しました。コープいしかわの宅配業務支援やコープ共済加入者訪問活動、能登町ボランティアセンターでの活動に参加したほか、福祉事業の職員は岩手県 DWAT の一員として被災地での活動に参加しました。



生活困窮者への支援を継続 フードドライブ・子ども食堂 割引支援・ささえあい募金

フードドライブ

対象商品を購入して寄付いただく活動で、2023 年度は店舗で 2 回、宅配で 1 回実施しました。3 回の取り組みで 7,196 点の食品が寄せられ、社会福祉協議会や地域の子ども食堂など 25 団体へ贈呈し、支援に役立てていただきました。



子ども食堂割引支援・ささえあい募金

地域の子ども食堂を支援する取り組みとして、「子どもの居場所ネットワークいわて」に加盟する団体を対象に、生協店舗・宅配での購入代金を 2 割引きに支援する取り組みです。2023 年度の割引支援は 14 団体（対象 5,650 人）が利用し、111 万円を助成しました。

子ども食堂割引支援の財源となる「ささえあい募金」は、店舗・宅配で 396 万円が寄せられました。

コープフードバンク 12 団体に 8.4 トンを提供

東北 6 県の生協で運営するコープフードバンクは、お取引企業から余剰食品などを無償で提供いただき、社会福祉に寄与する団体・組織などへ無償で提供する活動を行っています。

2023 年度は、新たに NPO 法人もりおかユースポートと協定を締結し、県内での締結は 18 団体となりました。活動では 12 団体へ 57 回 8.4 トン（前年△ 2.7 トン）の食品等を提供しました。また、自宅外から県内の大学・専門学校に通う学生を支援する取り組みにも食品を提供しました。活動を支えるサポーターは個人 266 人（前年+2 人）、法人 5 社です。

コープフードバンク協定締結団体(締結順)

- | | |
|--------------|---------------|
| ・宮古市社会福祉協議会 | ・認定 NPO 法人 |
| ・大船渡市社会福祉協議会 | インクルいわて |
| ・NPO 法人 | ・二戸市社会福祉協議会 |
| くらしのサポーターズ | ・ぬくまる食堂実行委員会 |
| ・岩手保護院 | ・滝沢市社会福祉協議会 |
| ・花巻市社会福祉協議会 | ・陸前高田市社会福祉協議会 |
| ・北上市社会福祉協議会 | ・住田町社会福祉協議会 |
| ・釜石市社会福祉協議会 | ・大槌町社会福祉協議会 |
| ・一関市社会福祉協議会 | ・久慈市社会福祉協議会 |
| ・奥州市社会福祉協議会 | ・NPO 法人 |
| | もりおかユースポート |

法人会員(岩手県内)

- | | | |
|-----------|-----------|----------|
| ・(株)事務機商事 | ・メフレ(株) | ・(株)モリレイ |
| ・(株)岩手給食 | ・銀河フーズ(株) | |

ユニセフ募金は 682 万円に

世界の子どもの命と健康を守るユニセフ募金に取り組んでいます。

2023 年度はパレスチナ・ガザ地区での紛争を受けて「ガザ人道危機緊急募金」(353 万円)に取り組みました。この緊急募金と通常のユニセフ募金(329 万円)で、2023 年度のユニセフ募金は 682 万円となりました。これまでの募金総額は 1 億 5,863 万円にのびます。



ユニセフ緊急募金に多くの募金が寄せられました。

「いわて消防団応援の店」 4 万 8 千人が利用

消防団員のみなさんの活動を支え、団員が増えるよう協力していこうと、「いわて消防団応援の店」に全店舗が登録しています。組合員に加入した上でレジで「消防団員カード」を提示すれば、5%分を割引くサービスを提供しています(1 日・15 日を除く)。2023 年度はのべ 4 万 8 千人がこの制度を利用しました。



認定ステッカーを店頭に掲示しています。

障がい者のくらしや活動を応援

障がいをお持ちの方のお買い物をサポートしようと、宅配事業では個人宅配配達手数料を割引く「障がい者サポート値引き」を実施(4,848 人利用)。また、視覚障がいのある組合員の買い物支援として、カタログを読み上げた CD を 42 人にお届けしています。店舗では「サービスケアアテンダント」資格取得者(66 人)が、お買い物をサポートしています。

障がい者のスポーツ活動を応援しようと、「スペシャルオリンピックス日本・岩手」のオフィシャルサポーター、「岩手県障がい者スポーツ協会」の賛助会員として協力しました。

自治体・関係団体の審議会で提言

住みよい地域づくりをめざし、組合員理事を中心に岩手県や県内市町、関係団体の審議会や委員会に委員として参加し、生活者の視点で提言を行っています。

2023 年度は「岩手県水産審議会」「岩手県食の安全安心委員会」「岩手県食育推進ネットワーク会議」など 27 の委員会に参加しました。



多くの組合員が運営の場に参加しています。



毎年8月9日に開催する「平和のつどい」。

第5章

組合員の活動

「だれもが安心して暮らせる社会と、人と人がつながる地域づくり」をめざして、組合員みんなで取り組みをすすめています。



平和運動 平和の大切さを学ぶ

いわて生協では「くらしの基本は平和があってこそ」との思いから、平和運動に取り組んでいます。

2023年度は、平和の大切さを学ぶ「ピースアクション in オキナワ」と「ピースアクション in ヒロシマ」に組合員理事ら5名を派遣。広報誌「わいわいコープ」や「平和のつどい」で学んだことを報告しました。また釜石艦砲射撃の体験を聞きとり、お知らせしました。

福島第一原発ALPS処理水の海洋放出 反対の立場で要請行動

政府が、東京電力福島第一原発事故に伴うALPS処理水を海洋放出する方針であることに対し、いわて生協は「国民の理解情勢が不十分」であることから反対の立場で署名などに取り組んできました。2023年8月に海洋放出の実施を決めたことから、反対の意見を表明したほか、環境省への要請活動に取り組みました。



環境省への要請活動には沿岸の理事が参加しました。

「福祉灯油」の実施を要請し 県内全市町村9万7千世帯で実現

ロシアによるウクライナ侵攻の影響でエネルギー価格が高騰する中、県内全市町村での「福祉灯油」の実施を求めて、岩手県生協連などいっしょに岩手県議会へ請願を行いました。

請願は採択され、福祉灯油を含む冬季暖房関連への助成3億4千万円が決定し、県内全市町村9万7千世帯で実施されました。



岩手県議会へ福祉灯油の実施を要請しました。

1万5千人の組合員参加で運営

多くの組合員の参加で生協を運営しようと取り組みました。2023年度は、若い世代の参加を増やそうと取り組み、のべ1万5,881人が参加。運営や計画づくりに多くの組合員の意見・要望をいかすことができました。

| 運営参加の場 | | 参加人数(前年比) |
|---------|-----------|---------------|
| 組合員の集まり | ウェルカムコープ | 7,157人(103%) |
| | 秋のコープのつどい | 6,685人(132%) |
| 計画づくり | コープ懇談会 | 1,358人(92%) |
| | コープ総代会 | 681人(112%) |
| 計 | | 15,881人(113%) |